

## 「経肛門的洗腸療法」学習会の報告

報告者 三井 智哉



コロプラスト株式会社の倉本さんと看護師の板倉さんにお越しいただき、新しい排便管理方法と実際に行うのか模型を使った実演をしていただきました。

方法としては、1～2日に一回500～1500mlのぬるま湯をカテーテルを用いて肛門から直腸に注入して直腸にある便を排出するというもので、その後24～48時間は便失禁をすることが無いそうです。

私たち脊髄、頸椎損傷者にとって排便は大きな課題です。常に失禁のリスクを頭に入れながら過ごしている人も多いのではないのでしょうか。また、これから先、排便にどれだけの時間を費やすのか考えるとみじめな気持ちになります。

今回教えていただいた排便方法を日常生活の中に導入すれば、トイレに長く座ることも、訪問看護に排便をお願いすることも、外出先で失禁の心配もすることも気にしないで大丈夫という事などが考えられます。これらの点が改善されれば、排泄という身体的問題以外にも当事者のQOLが向上し、社会参加する場面が増えていく、というところまで期待できるのではないのでしょうか。

外国ではすでに普及している技術とのことで、今後日本でも新たな排泄の選択肢として是非普及してほしいと思います。